

MAD(not yet)MAX

狂気はまだ振り切っていなかった

aスタジオはドゥーフワゴンと化す

MAD(not yet) MAX
狂気はまだ振り切っていなかった。

2015年初夏。今作のマッドにマッドで応えるため、シネマシティは数百万円をかけてアリーナ/スタジアム用サブウーファーを導入した。

しかしその後には大作の続編が目白押しであり、冬には映画史上最大シリーズの新作も控えていた。セーフティネットがあったのだ。それは無謀に見えただけで、今思えば、まったく正気の範疇だった。

MAD(not yet) MAX
だが、もうごまかさない。

命綱の、特大ヒットの連発を望める作品群は控えていない。かつ仕掛けるのは興行の常識からすれば成功の可能性は限りなく低いソフト発売後の再上映。

——ならばこそ。

フリオサが、最初にハンドルを裏切りの方向に切ったとき、その手はどのように震えただろうか？

MAD MAX
思考するな、臆するな、ただ突き進め。

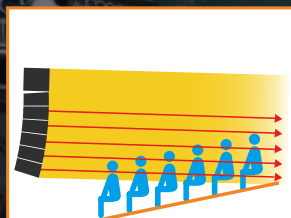
より深くこの作品世界を描写するために、シネマ・ツアースタジオに新たに meyer sound 社ラインアレイスピーカー「LEOPARD」を導入。最新・最強の武器ゆえ、その費用、60,000,000 円超。

この「覚悟」を名づけるな。
銀の塗料を口唇に吹きつけた者に、その理由を問うな。

Witness
振り切った者だけに到達が許される英雄の館の門を、シネマシティは「音」の力でこじ開ける。

ラインアレイスピーカーとは何か？

従来の1台のスピーカーからだけの音は、球面状に拡がっていくので距離によって減衰が起こり、また壁や天井などに反射して明瞭性を失いやすい。それに対し複数のスピーカーを縦に重ねることで音は円筒状に飛び、距離による減衰は少なく、余計な反射は減り、よりクリアな音を響かせられる。それがこの「ラインアレイスピーカー」である。



シネマ・ツアのaスタジオの前面、左右とセンターのスピーカーを入換。左右に「LEOPARD」(レパード)6台+サブウーファー「900-LFC」1台、そしてセンターは「LEOPARD」8台+「900-LFC」1台。計23台のスピーカーによって構成される。このずらり並んだむきだしのスピーカーの台数は、まさにドゥーフワゴンを彷彿とさせるではないか。